

2010.06.15 作成

2018.07.23 更新

# 環境活動レポート

2017 年度版

(2017 年 4 月 ~ 2018 年 3 月)

中央開発株式会社

〒169-8612 新宿区西早稲田 3-13-5

Tel 03-3208-3111

Fax 03-3208-3127

## 目 次

	ページ
環境方針 .....	1
事業活動の概要 .....	2
基準年の環境負荷と環境目標 .....	3
環境目標と達成状況および評価結果 .....	5
環境活動計画の内容と取組結果 .....	8
環境活動に対する取組み総合評価 .....	10
次年度の取組内容 .....	11
代表者による全体評価及び見直し結果 .....	12
環境関連法規への違反，訴訟の有無 .....	13
中央開発株式会社ネットワーク .....	14

# 環境方針

## 環境理念

中央開発株式会社は、「人と土と水」をテーマに 21 世紀の地球環境に配慮した高度な技術を提供していくために、事業活動全般についても下記の基本方針を定めて積極的に取組むと共にその持続的改善を行います。

## 基本方針

1. 環境目標及び環境活動計画を定め、その実現を図ると共に継続改善に努めます。
2. 環境に関する法規制・条例等を遵守し、環境汚染の予防に努めます。
3. 社員への環境教育の推進に努めます。
4. 環境活動レポートを作成し、公表します。
5. 事業活動において省資源に配慮し、環境負荷の低減等に取り組み、地球温暖化防止に努めます。

制定日 2007 年 12 月 12 日

改定日 2018 年 6 月 12 日

中央開発株式会社

代表取締役社長 瀬古一郎

## 事業活動の概要

### 事業所名

中央開発株式会社

### 代表取締役社長

瀬古 一郎

### 本社所在地

東京都新宿区西早稲田 3-13-5

### 環境管理責任者

松井 創

### 連絡先

Tel 03-3208-3270 (事務局：管理センター 情報管理室)

### 事業内容

地質調査，建設コンサルタント業務，測量，さく井工事，  
土壌汚染対策工事，計量証明事業

### 事業の規模

資本金 1 億円

創業 1946 (昭和 21) 年 3 月 10 日

### 対象範囲

環境への取組の対象範囲は，中央開発株式会社全組織・全活動・全従業員です。

売上高	8,901 百万円 (2017 年度)		
対象従業員数	328 名	(従業員)	(床面積)
対象組織 関連事業所	本社・東京支社 (本社ビル)	111	1,641
	札幌支店	11	168
	東北支店	24	699
	関東支店・ソリューション C (川口ビル)	56	1,558
	北陸支店	8	127
	中部支店	18	571
	関西支社	50	893
	中国支店	9	168
	九州支社	41	478
事務所延べ床面積	6,303m <sup>2</sup>		

対象従業員数及び関連事業所は，2018 年 6 月 1 日現在です。

対象事業所としては，中央開発株式会社ネットワークに示す環境負荷の小さい事業所における環境活動を含みます。

## 基準年の環境負荷と環境目標

### 1) 基準年および環境負荷の項目と負荷量

基準値は2013年度(2013年4月～2014年3月)の1年間の全社における環境負荷総量の実績値としています。

環境負荷の項目としては、二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、排水量および化学物質使用量を把握しています。

環境負荷の項目と基準年(2013年度)の実績値は、次表の通りです。なお、環境目標として、負荷量の絶対値ではなく、相対値(対売上高)を用いており同表に併せて示します。

環境負荷	項目	2013年度 (平成25)			
		実績		対売上高	
二酸化炭素排出量	電気使用量	813,847	kWh	103.1	kWh/百万
	ガソリン使用量	181,756	L	23.0	L/百万
	二酸化炭素排出量	865	t	0.11	t/百万
排水量	水道水使用量	3,920	m <sup>3</sup>	算出せず	
廃棄物排出量	廃棄物排出量	69,618	kg	8.8	kg/百万
	コピー用紙使用量	22,381	kg	2.8	kg/百万
化学物質使用量	化学物質使用量	0.11	t	算出せず	
業務実施における環境配慮	グリーン購入	60	% (環境配慮品の比率)		
	車両に係る燃費	14.0	km/L (燃料に対する走行距離)		

注：実績数値は、各事業所における環境負荷を集計した値を示す

事業所名	購入電力のCO <sub>2</sub> 排出係数 (kg-CO <sub>2</sub> /kWh)	
本社ビル	0.530	東京電力
札幌支店	0.678	北海道電力
東北支店	0.591	東北電力
川口ビル	0.530	東京電力
北陸支店	0.591	東北電力
中部支店	0.513	中部電力
関西支社	0.522	関西電力
中国支店	0.719	中国電力
九州支社	0.613	九州電力

## 2) 環境目標

5年間の中期目標として2018年度までに、二酸化炭素排出量削減に対して電気使用量およびガソリン使用量の2%削減、廃棄物排出量およびコピー用紙使用量の2%削減、業務実施における環境配慮に対して車両に係る燃費(向上)の2%増加を目標として設定しました。

環境負荷量を実数ではなく、相対値(対売上高)で評価しています。

水道水使用量と化学物質使用量は使用が限られており、しかも分析等の基準や規定に従って業務を行い、常に決まった分量(業務量に対応)のみを使用しているため、目標としては定性的基準(適正な管理)としています。

「自らが施工・販売・提供する製品及びサービスに関する環境配慮の取組」に対しては、発注者との打合せ、現場への移動ほか車両の使用頻度が高いので、エコドライブの推進(燃費=走行距離に対するガソリン使用量)を目標とします。

グリーン購入については、購入する「環境配慮品」の文具の品目数を徐々に増やしながら、定性的基準(適正な管理)として継続して取組みます。

運用期間2017年度(2017年4月~2018年3月)の数値目標値は、1年間の相対値(対売上高)とし基準値に対して、運用期間における二酸化炭素の排出を引き起こす電気、ガソリン、廃棄物、コピー用紙使用量の2.0%削減、と車両に係る燃費の2.0%増加を目標として設定しました。水道水と化学物質使用量の削減とグリーン購入に対しては、目標として定性的基準(適正な管理)としています。

テーマ	項目	単位	基準値 (実績)	目標	
			平成25年度 (2013)	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)
			年間	*98%	*98%
省資源 CO2の 削減	電気使用量	kWh/百万	103.1	101.0	101.0
	ガソリン使用量	L/百万	23.0	22.6	22.6
	二酸化炭素排出量	t/百万	0.11	0.11	0.11
		t	865	848	848
	水道水使用量	m3	3,920	適正管理	
環境負荷 の低減	廃棄物排出量	kg/百万	8.8	8.6	8.6
	コピー用紙使用量	kg/百万	2.8	2.8	2.8
	化学物質使用量	t	0.11	適正管理	
業務実施 における 環境配慮	グリーン購入	%	60	適正管理	
	車両に係る燃費	km/L	14.0	14.3	14.3
注:	車両に係る燃費の目標値は基準値に対して増加とする				

## 環境目標と達成状況および評価結果

本社および各事業所の環境活動の状況ならびに環境負荷の実績に関して、下表に、2016年度における環境目標に対する達成状況についてまとめています。

二酸化炭素排出量削減に対しては、全ての事業所で取組を進めており、測定データ（一部の事業所では目標超過となっております）から判断して全社としての目標は達成しています。

項目	事業所名	単位	基準		目標		実績		達成度		評価
			2013年度	%	目標数値	2017年度	A/B	C (%)			
					A	B					
電気使用量	本社ビル	kWh / 百万	100.5	-2.0%	98.5	78.0	126				
	札幌支店		40.4	-2.0%	39.6	40.9	97				
	東北支店		49.4	-2.0%	48.4	44.5	109				
	川口ビル		335.0	-2.0%	328.3	249.0	132				
	北陸支店		84.2	-2.0%	82.5	128.2	64				
	中部支店		79.8	-2.0%	78.2	83.3	94				
	関西支社		71.2	-2.0%	69.8	74.3	94				
	中国支店		78.1	-2.0%	76.6	93.7	82				
	九州支社		50.9	-2.0%	49.9	27.7	180				
	全社		103.1	-2.0%	101.0	85.8	118				○
ガソリン使用量	本社ビル	L / 百万	11.2	-2.0%	10.9	8.1	135				
	札幌支店		35.4	-2.0%	34.7	33.5	104				
	東北支店		32.4	-2.0%	31.7	31.1	102				
	川口ビル		23.4	-2.0%	22.9	20.6	111				
	北陸支店		63.3	-2.0%	62.0	78.8	79				
	中部支店		44.5	-2.0%	43.6	40.0	109				
	関西支社		17.2	-2.0%	16.9	16.3	103				
	中国支店		39.9	-2.0%	39.1	34.1	115				
	九州支社		25.9	-2.0%	25.3	11.3	224				
	全社		23.0	-2.0%	22.6	18.2	124				○
二酸化炭素排出量	本社ビル	t / 百万	0.08	-2.0%	0.1	0.06	129				
	札幌支店		0.11	-2.0%	0.1	0.11	102				
	東北支店		0.10	-2.0%	0.1	0.10	104				
	川口ビル		0.23	-2.0%	0.2	0.18	126				
	北陸支店		0.20	-2.0%	0.2	0.26	75				
	中部支店		0.14	-2.0%	0.1	0.14	104				
	関西支社		0.08	-2.0%	0.1	0.08	99				
	中国支店		0.15	-2.0%	0.1	0.15	100				
	九州支社		0.09	-2.0%	0.1	0.04	207				
	全社		0.11	-2.0%	0.1	0.09	121				○
二酸化炭素排出量	本社ビル	t	199	-2.0%	194.8	195	100				
	札幌支店		28	-2.0%	27.4	31	90				
	東北支店		92	-2.0%	90.5	80	113				
	川口ビル		187	-2.0%	183.4	163	113				
	北陸支店		44	-2.0%	43.3	38	114				
	中部支店		61	-2.0%	59.7	53	112				
	関西支社		120	-2.0%	118.0	111	106				
	中国支店		35	-2.0%	34.6	30	115				
	九州支社		98	-2.0%	95.9	91	105				
	全社		865	-2.0%	847.6	792	107				○

廃棄物排出量削減ならびにコピー用紙使用量削減に対しては、一部の事業所では目標未達成となっておりますが、全社としての目標は達成しています。

業務実施における環境配慮（車両に関する燃費の向上）に対しては、一部の事業所において目標超過していますが、全社としての目標は達成しています。

項目	事業所名	単位	基準		目標		実績		達成度		評価
			2013年度	%	目標数値		2017年度	A/B	C (%)		
					A		B				
廃棄物排出量	本社ビル	kg / 百万	5.1	-2.0%	5.0		5.2		98		
	札幌支店		1.5	-2.0%	1.5		1.1		135		
	東北支店		1.9	-2.0%	1.9		1.0		187		
	川口ビル		13.6	-2.0%	13.3		26.5		50		
	北陸支店		0.4	-2.0%	0.4		0.9		45		
	中部支店		2.0	-2.0%	2.0		2.0		99		
	関西支社		17.0	-2.0%	16.6		9.8		169		
	中国支店		0.24	-2.0%	0.2		1.1		22		
	九州支社		15.1	-2.0%	14.8		1.4		1086		
	全社		8.8	-2.0%	8.6		6.8		128		○
コピー用紙使用量	本社ビル	kg / 百万	2.5	-2.0%	2.4		1.9		132		
	札幌支店		3.5	-2.0%	3.4		4.0		86		
	東北支店		2.1	-2.0%	2.0		2.6		79		
	川口ビル		4.6	-2.0%	4.5		6.9		65		
	北陸支店		1.9	-2.0%	1.9		4.2		45		
	中部支店		2.6	-2.0%	2.5		1.9		131		
	関西支社		2.9	-2.0%	2.9		3.3		87		
	中国支店		2.5	-2.0%	2.5		2.7		92		
	九州支社		2.8	-2.0%	2.7		1.3		215		
	全社		2.8	-2.0%	2.8		2.8		100		○
項目	事業所名	単位	基準		目標		実績		達成度		評価
環境配慮（車両燃費）	本社ビル	km / L	13.6	2.0%	13.9		14.3		103		
	札幌支店		14.8	2.0%	15.1		17.2		114		
	東北支店		12.8	2.0%	13.1		14.0		107		
	川口ビル		14.7	2.0%	15.0		18.7		125		
	北陸支店		12.7	2.0%	13.0		14.1		109		
	中部支店		14.7	2.0%	15.0		16.7		111		
	関西支社		16.7	2.0%	17.0		16.7		98		
	中国支店		9.5	2.0%	9.7		14.1		145		
	九州支社		16.6	2.0%	16.9		17.2		102		
	全社		14.0	2.0%	14.3		15.9		111		○
注釈											
(不測):	負荷量が測定不可の場合の表記。										
「適正」:	目標として、負荷量を把握しながら定性的な目標を掲げて活動する場合を、適正管理と称しています。										
(定性):	なお、定性的な目標を掲げて活動していますが、負荷量が測定できないあるいは無し(ゼロ)の場合には、定性的管理と呼んでいます。										

水道水使用量に対しては、各事業所で適正な管理を進めています。

化学物質の使用は1つの事業所でのみ行われており、必要量のみの使用を基本として適正な管理を進めています。

グリーン購入の促進に対しては、一部の事業所において基準年値と比べ下回っていますが、全社として適正な管理を進めています。

項目	事業所名	単位	基準	目標	実績	達成度	評価
			2013年度	目標数値 立てず	2017年度	求めず	
水道水使用量	本社ビル	m3	1,120	「適正」	1363		
	札幌支店		(不測)	(定性)	-		
	東北支店		150	「適正」	145		
	川口ビル		1,512	「適正」	1378		
	北陸支店		(不測)	(定性)	-		
	中部支店		170	「適正」	133		
	関西支社		642	「適正」	533		
	中国支店		71	「適正」	155		
	九州支社		255	「適正」	228		
	全社		3,920	「適正」	3935		★
化学物質使用量	本社ビル	t	0	(定性)	0		
	札幌支店		0	(定性)	0		
	東北支店		0	(定性)	0		
	川口ビル		0.11	「適正」	0.191		
	北陸支店		0	(定性)	0		
	中部支店		0	(定性)	0		
	関西支社		0	(定性)	0		
	中国支店		0	(定性)	0		
	九州支社		0	(定性)	0		
	全社		0.11	「適正」	0.191		★
グリーン購入	本社ビル	%	59.1%	「適正」	48.8%		
	札幌支店		81.8%	「適正」	80.8%		
	東北支店		17.9%	「適正」	48.5%		
	川口ビル		60.6%	「適正」	86.7%		
	北陸支店		87.7%	「適正」	61.9%		
	中部支店		30.5%	「適正」	62.2%		
	関西支社		82.3%	「適正」	50.0%		
	中国支店		42.8%	「適正」	72.9%		
	九州支社		79.9%	「適正」	65.7%		
	全社		60.3%	「適正」	64.2%		★

評価欄  
 : 達成  
 : やや未達成  
 × : 未達成  
 : 評価対象外

水道水使用量 札幌支店・北陸支店はテナントオーナーに組込まれる業務実施における環境配慮としては『車両に係る燃費』を環境目標とする。

環境活動計画の内容と取組結果

テーマ	項目	環境目標項目	活動項目
省資源・二酸化炭素排出量の削減	二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デマンド監視，及びエアコンの温度管理（室内設定温度を夏は28 ±1，冬は20 ±1）</li> <li>・換気や循環で室内環境の改善に努める</li> </ul>
		ガソリン使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼休み時間中の蛍光灯消灯</li> <li>・使用していないスペースの蛍光灯消灯</li> <li>・離席時のPC画面消灯</li> </ul>
	用水量	水道水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車燃費向上目標の説明</li> <li>地球環境にやさしい運転（エコドライブ）の推進</li> </ul>
		水道水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給水バルブの調整による余分な水の消費削減</li> <li>・老朽設備(水道配管)等の修理</li> </ul>
環境負荷の低減	進	廃棄物排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙ごみ・プラスチック等資源の分別を徹底しリサイクルへの取組</li> <li>・マニフェストの管理の徹底</li> </ul>
		コピー用紙使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリンタ用紙に裏紙をセット</li> <li>・両面印刷を活用</li> <li>・情報伝達・共有のペーパーレス化</li> </ul>
	の削減	化学物質使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用する化学物質の適正な管理（使用事業所：土壌分析室&lt;川口ビル&gt;）</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学物質を使用する場合は適正な管理（上記以外の事業所：使用実績なし）</li> </ul>
環境教育	業務実施における環境配慮	グリーン購入の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グリーン購入の推進及び適正な管理</li> </ul>
		車輜燃費の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコドライブの推進</li> <li>・余裕を持った行動</li> <li>・燃費の把握</li> </ul>
	環境教育	社員の環境教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境・環境活動関連情報の提供</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境関連の資格取得を励行</li> </ul>

具体的な活動内容	取組結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>・デマンド通報時は迅速に対応（各階の担当者）する</li> <li>・エアコン等による温度設定を実施する</li> <li>・換気や扇風機を活用しエアコンの使用を極力避ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クールビズ，ウォームビズの実施。</li> <li>・デマンド監視モニターや電話連絡による警報を受けた際に，速やかに連絡できている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用していない部屋(場所)やトイレは消灯する</li> <li>・蛍光灯にスイッチひもを取り付け，使用していない場所は消灯する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用していない場所の消灯，及び昼休み消灯を実施している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・急加速，急停車の防止</li> <li>・交通状況に応じた速度で一定速度走行の心がけ</li> <li>・冷暖房の控えめ使用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球環境にやさしい運転（エコドライブの実践）と公共交通機関の利用促進によりガソリン使用量を削減している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレの手洗い等，給水バルブの調整により余分な水を流さない。</li> <li>・本社保水管の老朽部の修理実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標達成：全社において節水意識の向上に努め，無駄な使用を減らし，更なる節水を目指していきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リサイクル可能な紙類の適切な処理を行う</li> <li>・プラスチック等ごみ箱の設置検討（事務室内）</li> <li>・ペットボトルキャップのリサイクル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本社ビル内ではポリバケツ内に資源となる紙類が多く廃棄されているので分別の推進が望まれる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場で発生する廃棄物の削減</li> <li>・発行したマニフェストの適切な管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発行したマニフェストの管理を確実に実施したい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用済み用紙をストックし，裏紙として再利用する</li> <li>・プリンタの印刷設定（両面印刷・裏紙用トレイ）を行う。</li> <li>・社内電子掲示板 desknet's の利用や E-mail を用いて社内文書の回覧等を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全 9 事業所のうち，6 事業所で目標を達成できなかったものの，全社的には，目標を達成できた。使用済み用紙の再利用と、ペーパーレス化の効果が出てきている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用する化学物質は『種類，使用目的，使用方法，使用・保管量，使用・保管場所』を把握・記録することで確実な管理を行い，無駄な使用や流出を防止する。</li> <li>・化学物質を使用する場合は，上記の対応を参照し，無駄な使用や流出を防止する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学物質を使用する事業所である『土壌分析室』では，種々の基準・規則に従い，適正・確実な管理を行い無駄な使用・流失はない。</li> <li>・他事業所では，2017 年度も化学物質の使用はなかった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・文具等の物品購入における環境配慮品の購入状況を管理し，環境配慮製品の利用促進を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部事業所を除いて，グリーン購入の努力目標を達成。今後も文具等の物品購入における環境配慮品の購入状況を正確に管理し，環境配慮製品の利用促進を図る</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・やさしい発進を心がけ，無駄なアイドリングを止める</li> <li>・あらかじめルートを確認し，時間に余裕をもって行動する</li> <li>・車の燃費状況を月に 1 回社員に報告する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月々の燃費を把握することで，エコドライブ効果を実感しながらガソリン使用量を削減している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境関連に関する情報を，社内報，電子掲示板や社内研究発表会等で発信する。</li> <li>・技術士や環境社会試験(eco 検定)の試験情報を社内報や電子掲示板等で周知する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社内報や電子掲示板を用いて，エコアクション 21 による環境活動やその他環境関連情報の提供を定期的に行った。</li> <li>・技術士，eco 検定の資格取得。</li> </ul>

## 環境活動に対する取組み総合評価

### 省資源・二酸化炭素排出量の削減

電気使用量およびガソリン使用量に関して、具体的な活動内容について一通り実施できており、目標を達成することができました。電気使用量とガソリン使用量から算出した二酸化炭素排出量も目標達成しました。今後もこれを継続するとともに、より使用量削減を実現する施策を検討していく予定です。

水道水の使用は限られており、放水や散水といった極端な量の使用はないが、本社ビルにおいて昨年の秋口から使用量が急増（前回指針の約 1.5 倍）した。原因は施設の老朽化によるものと判明し、復旧工事によって漏水を止めることが出来ました。その他、全社的に適正管理を進めており節水を心がけています。

### 環境負荷の低減

廃棄物は、それぞれ資源・ごみ分別とリサイクル推進活動に努めており、目標を達成しました。また、本社ビル他で、エコカップの回収に参加し、九州支社においては地区廃品回収へ協力した活動を行っています。なお、現場で発生する廃棄物の削減ならびに管理を徹底するなど活動を進めています。

各事業所でペーパーレスや裏面使用など工夫しており、コピー用紙使用量削減の環境活動を進めていますが、業務の性質上コピー用紙の削減があまり順調には実施できていません。また、化学物質を業務に使用する事業所は 1 ヶ所のみであり、使用にあたっては種々の基準・規則に従い、適正・確実な管理を行っています。

### 業務実施における環境配慮ならびに環境教育

文房具類の購入において、環境配慮品の有無、使いやすさや価格などを検討してグリーン購入を進めています。「業務実施における環境配慮」として、エコドライブの推進を進め車両燃費の向上に努めています。また、事業所ごとに低燃費車両の導入を計画し実施しています。

環境活動の取組について、社内報や電子掲示板等により報告し社員の意識向上を図りました。その他、保全に関する研修や社外の講習会への積極的な参加および社内研修の計画・実施を全社的にを行い、環境保全に関する情報の共有化を全社的に図る仕組みづくりを行なっていく予定です。

### 地下水熱利用ヒートポンプの導入

東北支店において、地下水熱利用ヒートポンプシステムを 2013 年 12 月に導入しました。ヒートポンプは地下水などの熱媒体を循環させ高い温度の物体から熱を奪い、低い温度の物体に伝える装置であり、天候等に左右されない安定したシステムです。これは、再生可能エネルギーを用いて、温室効果ガス排出量の削減、エネルギーセキュリティの確保も同時に実現できるものです。

## 次年度の取組内容

### 電気使用量の削減

デマンド監視，及びエアコンの温度管理（室内設定温度を夏は 28 ±1 ，冬は 20 ±1 ）

換気や循環で室内環境の改善に努める

使用していないスペースの蛍光灯消灯

離席時の PC 画面消灯

### ガソリン使用量の削減

地球環境にやさしい運転（アイドリングストップ，急加速の抑制，冷暖房の控えめ）の  
ススめ

### 水道水使用量の削減

給水バルブの調整等による余分な水の消費削減

### 廃棄物排出量の削減

廃棄物・資源の分別を徹底しリサイクルへの取組

マニフェストの管理の徹底

### コピー用紙使用量の削減

プリンタ用紙に裏紙をセット

印刷ミスを減らす

情報伝達・共有のペーパーレス化

### 化学物質使用量の削減

使用する化学物質の適正な管理（使用事業所）

化学物質を使用する場合は適正な管理（上記以外）

### グリーン購入の推進

グリーン購入の推進および適正な管理

### 車輜燃費の向上

エコドライブの推進

余裕を持った行動

燃費の把握

### 社員の環境教育の推進

環境推進活動に関する研修会・講習会の参加

環境保全に関する情報の提供

## 代表者による全体評価及び見直し結果

### 1) 目標・環境活動計画の達成状況

- ・2017年度は、環境目標としている全項目において、使用量の削減に関して全社としての目標を達成（5年間の中期目標を4年に繰り上げて達成）することが出来ました。

### 2) 評価と改善への提案

- ・2011年度からは事業活動に伴う環境への負荷を含めた方針で、全社での取組を進めています。
- ・2014年からは、事務所の移転等を考慮して新基準年度を2013年度の実績として環境推進活動を進めています。
- ・5年間の中期目標として2018年度までに、二酸化炭素排出量削減に対して電気使用量およびガソリン使用量の2%削減、廃棄物排出量およびコピー用紙使用量の2%削減、業務実施における環境配慮に対して車両に係る燃費（向上）の2%増加を目標として設定します。
- ・次年度（2018年度：2018年4月～2019年3月）は5年間の中期目標の最終年度となります。2018年度の数値目標値は、1年間の相対値（対売上高）とし基準値に対して、二酸化炭素の排出を引き起こす電気、ガソリン、廃棄物、コピー用紙使用量の2.0%削減、と車両に係る燃費の2.0%増加を目標として設定します。水道水と化学物質使用量の削減とグリーン購入に対しては、目標として定性的基準（適正な管理）としました。
- ・ガソリン使用量の管理目標には燃費について考慮し、エコドライブの推進活動を引き続き進める、と同時に低燃費車両への切り替えなどの検討を行います。
- ・化学物質を業務に使用する事業所は1ヶ所ですが、劇物・薬物といった薬品に関しては、取扱いに十分配慮しさらに緊急事態を想定した対応策を定めて訓練等を実施しています。
- ・現場・事務所からの産業廃棄物排出量の管理を徹底し環境負荷を減らす取組を行います。また、廃棄物のリサイクル化についても検討します。

## 環境関連法規への違反，訴訟の有無

環境関連法規への違反はありません。なお，関係当局よりの違反等の指摘は，過去3年間に1件も発生しておりません。

### 環境関連法規等の取りまとめ

事業活動に当たって遵守しなければならない環境関連法規，条例及びその他の規制は以下のとおりです。

- (1) 資源の有効な利用の促進に関する法律
- (2) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律
- (3) 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律
- (4) 特定家庭用機器再商品化法
- (5) 水質汚濁防止法
- (6) 下水道法
- (7) 大気汚染防止法（自動車からの排出される窒素酸化物）
- (8) 土壌汚染対策法
- (9) 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律
- (10) フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律
- (11) 労働安全衛生法
- (12) 消防法 等
- (13) 各自治体における条例（各事業所の所在地に対応）

## 中央開発株式会社ネットワーク

本社 〒169-8612 東京都新宿区西早稲田 3-13-5

本社管轄 組織一覧（順不同）

管理センター / 事業本部 / 技術センター / ソリューションセンター / 海外事業部

東京支社 〒169-8612 東京都新宿区西早稲田 3-13-5

東京支社管轄 組織一覧（順不同）

神奈川支店 / 静岡支店 / 川崎事務所

関東支店 〒332-0035 埼玉県川口市西青木 3-4-2

関東支店管轄 組織一覧（順不同）

茨城営業所 / 栃木営業所 / さいたま営業所 / 群馬営業所 / 長野営業所 / 千葉営業所

札幌支店 〒003-0002 北海道札幌市白石区東札幌 2条 5-76-3 3Dコート

札幌支店管轄 組織一覧

函館事務所

東北支店 〒984-0037 宮城県仙台市若林区蒲町東 20-6

東北支店管轄 組織一覧（順不同）

青森営業所 / 盛岡営業所 / 秋田営業所 / 山形営業所 / 福島営業所

北陸支店 〒950-0982 新潟県新潟市中央区堀之内南 3-1-21 北陽ビル

北陸支店管轄 組織一覧

富山営業所

中部支店 〒453-0853 愛知県名古屋市中村区牛田通 2-16

中部支店管轄 組織一覧（順不同）

三重営業所 / 岐阜営業所

関西支社 〒564-0062 大阪府吹田市垂水町 3-34-12

関西支社管轄 組織一覧（順不同）

大阪南営業所 / 京滋営業所 / 神戸支店 / 奈良営業所 / 大阪事務所 / 和歌山営業所

岡山支店 / 鳥取営業所 / 四国支店 / 高松営業所 / 西条事務所

中国支店 〒733-0012 広島県広島市西区中広町 3丁目 14-15 AY HORIIKE 2階

中国支店管轄 組織一覧

山口営業所

九州支社 〒814-0103 福岡県福岡市城南区鳥飼 6-3-27

九州支社管轄 組織一覧（順不同）

佐賀支店 / 熊本支店 / 大分支店 / 宮崎支店 / 鹿児島支店 / 長崎事務所 / 沖縄支店